

ドローンを使って、びわの病害虫防除の省力化を図る！

～産地と一緒に新たな防除技術の導入効果を検証～

安房農業事務所改良普及課 令和4年5月24日発

びわは、安房地域を代表する果樹の1つであり、冷気が停滞しにくく、寒害を回避しやすい急傾斜地で主に栽培されています。しかし、病害虫防除時の作業負担が大きく、特にカメムシ類による果実の吸汁被害は収量を著しく減少させるため、生産者からは省力的な防除方法が求められています。

そこで農業事務所では、産地と連携して令和2年度から農業用ドローンによる空中散布の導入効果を検証しています。5月19日には検討会を開催し、生産者組織の役員や関係機関12名が参加しました。「地上散布は困難で、被害があると分かっても防除できない。負担が少ないなら導入したい」など前向きな意見が出されました。今後、生産者や関係機関に対して防除効果等を報告し、導入に向けて話し合う予定です。当事務所では産地と連携し、びわの安定生産に向けて引き続き活動していきます。



散布の様子を確認する参加者



山の頂上のびわ樹に散布する様子